２０２７年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題　法律科目試験

（刑　法）

次の（設例）を読んで、問（１）から（３）までに答えなさい。

（設例）

１　Ｘは、自動車事故を装ってＸがＡに傷害を負わせ、保険会社から保険金をだまし取ろうと計画し、これをＡに提案した。金に困っていたＡは、この計画に加わることを承諾した。Ｘは、この計画に基づき、自己の運転する自動車を、Ａの運転する自動車に故意に衝突させ、Ａに約１か月の加療を要する頸椎捻挫等の傷害を負わせた。

２　その後、Ａは、保険会社から保険金の支払いを受けたが、保険金をだまし取ったことがいずれ発覚すると思ったため、警察に出頭して自首しようと考え、Ｘを公園に呼び出し、Ｘにその旨を告げた。Ｘは、Ａが自首すると自分まで検挙されることから、自首を思いとどまるようＡを説得した。しかし、Ａが翻意しなかったため、Ｘは、「おれの言うことが聞けないのか」などと言いながらＡを何度も殴打し、それによりＡは失神した。Ｘは、上記保険金詐欺に関するＸとＡの通信記録がＡのスマートフォン（以下「スマホ」という）に保存されているかもしれないので、Ａが失神している間にスマホを持ち去ってすぐに廃棄しようと考え、Ａの鞄の中からスマホを取り出し、その場から持ち去った。５分後、Ｘは、スマホを近くの川に投げ捨てた。

３　その後、上記公園をたまたま通りかかったＹは、倒れているＡを発見した。Ｙは、動かないＡを見て、Ａが死亡していると誤信した。Ｙは、Ａが着用している上着のポケットにＡの財布が入っているのを見つけ、その中の現金を遊興費に使おうと考え、その財布を持ち去った。

問（１）　（配点：２０点）

Ａが自己の身体に傷害を加えられることを承諾していたことが、（設例）の１におけるＸの傷害罪の成否にどのように影響するか、論じなさい。

問（２）　（配点：３５点）

Ｘがスマホを持ち去った行為について強盗罪の成立を否定するためにどのような主張がありうるか。考えられるものを２つ挙げ、それぞれの内容を説明しなさい。なお、自らの見解について論じる必要はない。

問（３）　（配点：４５点）

Ｙの罪責について論じなさい（特別法違反の点を除く）。